

佐世保市教育委員会の自己点検及び評価について

外部評価A：中野はるみ（長崎国際大学）

はじめに

未曾有の東日本大震災と福島第一原発事故による放射能被害とが、8月9日を経験した長崎県人には我が事のように胸に迫りくる。「長崎市はこのように復興を遂げ、焼け野が原を活気ある都市へと発展させ得たのだから、大丈夫」と皆で応援している矢先に、追い打ちをかけるように、鎮魂や復興のことばが書かれた陸前高田市からの薪を、放射能が心配であるという理由で大文字保存会が受入れず、地元で「精霊の迎え火」として燃やされたという報道がなされた。そして、また一転、他の保存会への京都市長の打診により、別の薪が「京都での送り火」に使われると報じられたが、樹皮に放射性物質を含むとの検査結果により中止の憂き目にあったという。

他人が「人の痛み」を実感できるのは、同じ痛みを持つからである。長崎県人は、長崎市への原爆投下により今でも苦しんでいる被爆者の痛みによって、東日本の津波で何もかも失ってしまった悲惨さや福島の放射能汚染を自らの体験と重ねあわせることができる。放射能被害に対する恐怖や不安は誰しも持ち合わせていることは承知で、あえて言わせてもらえば、検査された薪に放射能汚染が無かったとわかった上で、一度は引き受けた精霊に対する「送り火」を中止するという愚行は、東日本大震災の死者や福島放射能汚染被害者に対する思いやりの無さであり、事柄の重大さとその影響に対する自覚のなさを浮き彫りにした。

長々と遠回りし、無関係のことを記してきたようであるが、人の心と考えは人間活動の真ただ中で育まれていくのであるから、佐世保の豊かな自然のなかに生かされている者は、まずもって「豊かな心をはぐくむ」教育を推進の中心に据えて、当委員会がこれからも活動されることを心から願い、第3年目の最終外部評価をさせていただきたいからである。

I. 内部評価結果（総括）に関して

内部評価によれば、平成22年度は、「平成21年度の活動を省み、本市教育水準の維持向上に努め、概ねその職務を果たした」という総括である。上記の総括は適正である。

さらに、平成23年度へ着実な歩みをすすめ、「開かれた教育委員会」を目指し、さまざまな改善に取り組まれているところであるとされている。これからは、学校教育に偏りがちであった活動を幅広い「教育」という観点から捉え、社会教育やスポーツ行政の現場にも足を運び、視野広く活動を展開していくという姿勢は、学校教育での活動評価が定まっ

てきているという委員各位の判断の表れであろう。これまで学校教育現場で培ってきた視点を、さまざまな社会教育現場で活かしていき、佐世保市の生涯学習が市民の人生を豊かにする一助となるよう、教育委員会の活動に期待する。

Ⅱ. 教育委員会の活動状況（評価シート①）に関して

本年度の評価シート①の特質は、「教育委員会をより開かれたものとするため」の活動である。以前より「定例教育委員会の議事要録」をネット上で公開していたが、傍聴者を増やすために、委員会の期日や議事内容を事前にネット上で公開するなど、教育委員会が委員だけの密室会議ではないことを広くアピールしている。

これは、委員会開催が適切に行われていることを明確に表している。議事要録をみても、議事が的確に行われており、事務局からの情報提供の的確さや提案議題の追認に終わらない活発な審議がみられ、委員各位が責務に溢れているようすがみてとれる。これは事務局から事前に資料が送付されているので、十分に検討する時間が確保されているからであろう。

議事要録は現在、平成 20 年度 12 回の定例教育委員会会議・平成 21 年度 12 回の定例教育委員会会議・平成 22 年度 12 回の定例教育委員会会議、そして、平成 23 年度も 4 月～6 月の 3 回の定例教育委員会会議分が掲載されている。定例会議については、それぞれの公開されている議事要録を拝見すれば、上記に記した評価が妥当であることがわかるはずである。

議事要録が公開されていない委員会に関していえば、前期教育委員会や臨時教育委員会がある。前期教育委員会は義務開催ではない委員会であり、近年は「勉強会」としても位置づけされていて、昨年度も有意義な研さんが実施されているが、22 年度も視察が 4 回と勉強会が 3 回実施されている。下記のとおりである。

6 月前期：視察「世知原小学校屋内運動場」

7 月前期：視察「佐世保市総合教育センター」

10 月前期：勉強会「二学期制の総括について」

11 月前期：勉強会「全国学力・学習状況調査」及び「全国体力・運動能力・運動習慣等調査について」

12 月前期：視察 大村市立大村小学校「ICT 活用研究発表会」

2 月前期：視察 佐賀市立西与賀小学校

「フューチャースクール推進事業の事業内容、事業効果について」

「佐賀市における教育の情報化と現状と課題について」

「佐賀市の ICT 機器の整備状況について」

3 月前期：勉強会「親の保護能力欠如による児童生徒の受入体制及び指導の限界を超える児童生徒の受入体制について」

これらの勉強会については、事務局がつぎのような資料を提供し情報が共有される勉強会であった。

- ・10月前期：佐世保市教育委員会「学校2学期制実施状況<経過報告>」平成22年8月。
- ・11月前期：佐世保市教育センター「平成22年度全国学力・学習状況調査にかかる基礎資料」平成22年11月。
- ・3月前期：学校教育課「3月前期教育委員会資料」「資料1」「資料2」「資料3」
佐世保市子ども子育て応援センター「3月前期教育委員会資料」

このように、教育委員は提案される議事内容の把握のために日進月歩変化している教育環境や教育現場の状況把握に努めており、多様な属性をもつ委員がさまざまな意見を出しあい、委員同士のコミュニケーションを深める機会になっているように拝察できる。

議会への出席及び首長との意見交換は、教育委員会委員長だけではなく教育委員全員が参加していて、「地域住民の意向を反映」させ、「首長からの独立性」をもつ教育委員会の任務を果たしている。

学校訪問については、昨年度の外部評価で前年と比べると減少がみられると評していたところ、8月定例教育委員会で検討され、学校教育現場訪問の重要性が再認識されている。事務局によれば、「従来より4年間で市内の学校すべてが一巡されるようになっており、A・B訪問トータルで経営状況を把握する」とのことであった。確かに、学校訪問に関しては学校行事等の関係もあり、前年比のみの理解では適切な評価ができないことも明らかではあったと思う。とはいえ、筆者作成の表1・表2の佐世保市教育委員の小中学校訪問一覧は、一巡訪問以上の何らかの客観的な考察材料も与えてくれる。表中右枠の「その他」の訪問には、「心の月間見学」や「研究発表会」など「自己研さん（研修等）」で小中学校の名称が記されてあった訪問を記入してある。委員は、出席努力の学校訪問（A）だけではなく、さまざまな学校行事に積極的に参加していることが一目でわかるのである。

外部団体との意見交換に関しても、「社会教育委員の会」との連携が視野に入れられるという内部評価は、新しい委員会活動の胎動が感じられて頼もしい。

Ⅲ. 教育委員会が管理・執行する事務（評価シート②）に関して

内部評価にあるとおり、昨年度に引き続き予算編成が下記のとおり議案に上り、教育委員各位は活発な質疑を行い、委員各位の意見が反映されていて、内部評価は適正である。

- 5月前期：平成22年度佐世保市一般会計補正予算（6月補正）の件
- 8月定例：平成22年度佐世保市一般会計補正予算（9月補正）の件
- 11月定例：平成22年度佐世保市一般会計補正予算（12月補正）の件
- 12月定例：平成22年度佐世保市一般会計補正予算（1月補正）の件
- 1月前期：平成23年度予算の件
- 2月定例：平成22年度佐世保市一般会計補正予算（3月補正）の件

また、先に記したように、活発な意見が多様な角度からなされていて、しかも、議事進行がスムーズな会議運びとなっている。そのスムーズさは単に事務局追従で時間がスムーズに流れるというものではなく、議題に対する内容把握の的確さと事務局の対応のよさが相まったもので、教育委員会各位の見識の高さを物語っている。

IV. 教育委員会が管理・執行する事務（評価シート③）に関して

本年度の評価シート③には、92 の事務事業が実施され、それぞれに詳細な内部評価がなされている。

平成 22 年度の最大事業費（1,104,849 千円・308,469 千円）を要しているのは、平成 20 年度から取り組んでいる「小学校施設整備事業」と「中学校施設整備事業」であるが、災害時の住民避難場所として、校舎・屋内運動場・プール等の改築や耐震化は急を要する事業であるという認識はますます高まっている。当事業は、平成 22 年 5 月に策定された「佐世保市立学校施設耐震化推進計画」に基づき着々と進捗し、コスト縮減にも努力しながら指標達成 100%を実現した。計画は「平成 27 年度末までに学校施設の耐震化完了を目標として」策定されているが、本年（23 年）3 月 11 日を教訓にするならば、少しでも早めの完了が期待されるのではなかろうか。いずれにしろ、下記ホームページに掲載し、市民へ周知している面や「安全・安心な教育環境の確保」へ向けた取り組みは特に評価できる点である。<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/www/contents/1280458544580/files/- .pdf>

また、22 年度からの新規事業は 1～5 の下記 5 件で、終了した事業は①②の下記 2 件であった。

1. 総合教育センター事業
2. 江迎地区生涯学習センター管理運営事業
3. 鹿町地区生涯学習センター管理運営事業
4. 針尾送信所保存整備事業
5. 長崎国体施設整備事業

- ①佐世保市育英会運営助成事業
- ②放課後子どもプラン推進事業

1. 総合教育センター事業については、平成 22 年 10 月供用開始に伴い新設された事業である。4 年間にわたる総合教育センター(仮称)建設事業が満期終了し、「開館前の PR 効果もあり、想定を大きく上回る」利用であったと内部評価に記されている。

具体的には、プラネタリウム利用見込み 2,500 人のところ 5,818 人、貸館、科学教室事業等の利用見込み 8,500 人のところ 19,827 人、入館者数目標 22,000 人のところ 41,247 人と、それぞれ 232.7%、233.1%、187.4%と大きく目標値を超えていて、平成 13 年度に設置された「佐世保市の教育を考える市民会議」の提言が、平成 22 年度（9 年後）に花開き実りあるものになっていることを示している。しかも、コスト縮減努力も怠ることなく、

予算額 10,556 千円のところ 6,689 千円の決算額であり、63.4%の数値に抑えている。佐世保市の学校教育と生涯教育の要になる施設の新設がなされたのであるから、これからはさらに、教育センター・少年科学館・清水地区公民館、それぞれの充実した活動が深まっていくことが期待される。

2. 江迎地区生涯学習センター管理運営事業及び 3. 鹿町地区生涯学習センター管理運営事業、並びに 5. 長崎国体施設整備事業については、合併や長崎国体開催に伴う事業であるが、それぞれ地域住民のための妥当な管理運営や適正規模の決算が行われており、内部評価も詳細に記されている。

①は、東京学生寮の廃止、②は、学社融合推進事業への統合によるもので、それぞれ発展的解消になっていて、事業成果を出しての終了となっている。

本年度、やや問題があると思われる事業は、「成人式典事業」であろう。成人式典への参加率が、平成 20 年は 61%、平成 21 年は 56%、そして平成 22 年度 48%と 50%を切る状況になってきている。その認識は内部評価にあるとおりであるが、生涯教育が叫ばれるなかにおいて、「地域社会を支える大人としての新たな一歩を踏み出すことに寄与」する成人式典への参加率が減少している点は検討されるべきであろう。「案内はがきの送付」と「成人式典検討会開催回数」のみが活動指標とされているのはいささか問題が残る。円滑な式典進行やマナー遵守のみの問題ではなく、新成人を本当に祝する祭典を目指した取り組みを期待したい。

他の事業は成果指標（実績）が前年度より大幅に下回っている事業は見られない。それらは、また成果指標（目標）とも大きくずれているものもない。むしろ、吉井・世知原・宇久・小佐々・江迎・鹿町、それぞれの生涯学習センター管理運営事業指標においては、成果指標（実績）のほうが、約 1,500 人～3,600 人も多くみられ、施設利用者の多さを物語っていて、「生涯学習のまちづくり」政策が着実に成果を上げていることがわかる。

さまざまな取り組みがそれぞれの事業で盛んに行われた結果、このような利用者の増加がなされたのである。それは、「教育委員会のホームページのお知らせ」「各所属のホームページと各施策・業務の紹介」「申請様式のダウンロード」「メッセージ」「教育委員会の施策のご紹介」「携帯版ホームページ」など、充実した情報掲載で見てとれる。

平成 22 年度の教育委員会が管理・執行する事務（評価シート③）は内部評価にあるとおり、適正かつ適切に運営・管理され多彩な事業展開が日々なされている。翌年に向けた課題や問題点もそれぞれの課と担当者は概ね的確に把握し、つぎの活動指標を定めているといえる。

おわりに

教育基本法の改正が平成 18 年度にあり、それ以後、佐世保市教育委員会においてもさまざまな取り組みが行われるなか関係者はその対応に追われ、事務作業が大幅に増加し責務

も倍加する状況になったと思料される。当外部評価もその一部になるのだが、筆者は平成20年度から教育委員会の活動の公開を主張し、「多くの人の目が教育行政と自己点検と評価に注がれば注がれるだけ、佐世保市教育委員会の目指す『心豊かな人を育むまちづくり』の方針の確かさが実証されることになる」と述べてきた。

現在の佐世保市教育委員会のホームページには、心のこもった教育委員会委員長と教育長のあいさつ、教育委員会の会議要録、教育委員の紹介、自己点検及び評価、施設案内、各種助成事業の募集、部局長の『“キラっ都”宣言』、学校給食実施方針、教育振興基本計画などが掲載されている。そこには「開かれた教育委員会」のありさまがみてとれる。

筆者がみてきた3年間の佐世保市教育委員会とその関係部署の活動は、諸環境の悪化や法律改正以後の困難な状況にあって非常に効率的な作業を積み重ね、年度ごとに目に見える形で教育効果を上げてきていることがわかる。ホームページへの公開は、勇気と覚悟と実践の証だからである。

これからは、定期的なホームページへのアクセス件数の把握および適切な更新を行っていき、その一方でこれまで同様の真摯な諸活動を行っていけば、いつの日か市民が教育委員会の傍聴に訪れる日がやってくるにちがいない。内部評価の総括にあるように、これからは学校教育に加え、『社会教育』や『スポーツ行政』の現場にも足を運び、幅広い視野を持って」力強く活動されることを心より願っている。

さいごに、歴代の教育委員会の委員長はじめ委員の皆さま、および教育委員会関係諸氏の類まれな取り組みに対して心より敬意を表し、佐世保市教育委員会の益々のご発展を心より祈念し、3年目の外部評価の任を終わらせていただきます。

表1 H20・H21・H22年度の佐世保市教育委員の小学校訪問一覧

N. O.	小学校名	VSA	SA	A	B	C	その他		
1	宮			10/29			6/27		11/12
2	三川内			11/16			7/25		
3	広田						6/27		
4	花高			11/12				5/24	
5	早岐			7/7					
6	江上			7/3					
7	針尾			7/14					
8	大塔							6/25	
9	黒髪								6/15
10	日宇								
11	天神				7/14		6/27		
12	港						6/24	6/9	

13	福石				7/14				
14	木風						6/24		
15	潮見								
16	白南風						6/25		
17	小佐世保				7/15		6/30	6/12	6/11
18	祇園				10/1				
19	山手				9/29		7/2		
20	春日			6/9・ 11/4					
21	清水			11/2				11/11	
22	大久保			7/9・ 7/15				6/1	
23	金比良			7/6				11/13	
24	大野			11/25・ 11/24			6/24	6/26	
25	柚木			7/7			11/28		
26	世知原			11/11		10/6	6/23	5/19	
				6/2			6/27	6/30	
27	赤崎				11/15				
28	船越				10/21		6/17	6/27	
29	庵浦				9/29		6/18	6/11	
30	俵浦				7/12				
31	日野							6/12	11/19
32	黒島					6/2			
33	浅子			6/3					
34	相浦								
35	高島分校								
36	相浦西								
37	大崎分校								
38	中里			11/19	9/30			6/26	
39	皆瀬			6/10	9/28		6/27		
40	吉井南			7/8	10/25		7/1		
41	吉井北	6/11			7/13		6/26		
42	宇久								
43	神浦								

44	小佐々			11/26			7/11		
45	楠 栖		11/27 10/21				7/1	7/1	
46	江迎				6/3				
47	猪調				10/27				
48	鹿町				10/5				
49	歌浦				5/20				
計	H20 年度 34 校	1 校	1 校	9 校	2 校	1 校	20 校		
	H21 年度 26 校		1 校	6 校	3 校	1 校		15 校	
	H22 年度 23 校			7 校	12 校				4 校

(教育委員会資料より筆者作成 ・黒字は H20 年度、赤字は H21 年度、青字は H22 年度)

表 2 H20・H21・H22 年度の佐世保市教育委員の中学校訪問一覧

N. O.	中学校名	VSA	SA	A	B	C	その他		
1	宮								6/30
2	三川内								
3	広田			10/22			6/19		
4	早岐			11/20			6/26		
5	東明			10/19					
6	日宇			10/22					
7	崎辺			7/13					
8	福石			11/21					
9	山澄								11/5
10	祇園			7/3					6/9
									7/16
					10/29		6/20	6/19	6/4
	旧花園				11/25		7/30	9/27	
11	清水						6/20	11/19	
12	光海			10/15			6/20		
13	愛宕		11/18		7/1			6/1	
14	野崎			10/26					
15	黒島			12/20					
16	浅子			(6/3)					
17	日野				11/2				

18	相浦			10/20	11/12				
19	中里			11/14					
20	大野				10/20		10/20		6/1
21	柚木			7/5					
22	吉井			9/24	11/25		6/27	6/25	2/17
23	世知原						6/25 10/26 11/4	5/19 6/29 10/25 11/9	10/31
24	小佐々			10/7	10/9		7/4		6/28
25	宇久			10/30					
26	江迎			10/19					6/29
27	鹿町			10/8					7/2
計	H20 年度 25 校		1 校	8 校	4 校		12 校		
	H21 年度 15 校			4 校	2 校			9 校	
	H22 年度 20 校			7 校	2 校				11 校

(教育委員会資料より筆者作成 ・黒字は H20 年度、緑字は H21 年度、青字は H22 年度)

*ゴシック体の学校：平成 20・21・22 年度に教育委員が訪れていない学校。